

# 第11回

## '00選抜女子駅伝 北九州大会

□ 期 日 / 2000年1月23日 (日)  
 □ コース / 小倉北区・小倉城歴史の道—  
 八幡西区・北九州プリンスホテル  
 折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

### 順位

#### 一般・大学の部

1	九電工(福岡)	1° 45'54"
2	沖電気宮崎(宮崎)	1° 46'04"
3	京セラ(鹿児島)	1° 47'41"
4	デオデオ(広島)	1° 47'54"
5	富士銀行(東京)	1° 48'35"
6	四国電力(香川)	1° 48'52"
7	TOTO(福岡)	1° 49'40"
8	日本生命(大阪)	1° 49'42"
9	天満屋(岡山)	1° 49'49"
10	京都産業大学(京都)	1° 50'08"
11	ラララ(熊本)	1° 50'54"
12	ベスト電器(福岡)	1° 55'04"
13	ユニクロ(山口)	1° 56'10"

#### 区間賞

第1区(4.2km)	松林 妙子(日本生命)	13'30"
第2区(5.9km)	麓 みどり(デオデオ)	18'47"
第3区(5.1km)	楠 真美(デオデオ)	16'22"
第4区(5.9km)	下司 則子(九電工)	19'22"
第5区(11.7km)	岡本 幸子(沖電気宮崎)	36'47"

1区、5区は新コース

#### 高校の部

1	諫早(長崎)	1° 47'24"
2	筑紫女学園(福岡)	1° 49'17"
3	神村学園(鹿児島)	1° 49'28"
4	口加(長崎)	1° 50'26"
5	戸畑商業(福岡)	1° 51'34"
6	九州国際大付(福岡)	1° 52'44"
7	山田(高知)	1° 53'31"
8	柳川(福岡)	1° 53'40"
9	西京(山口)	1° 53'57"
10	如水館(広島)	1° 54'33"
11	松山商業(愛媛)	1° 55'33"
12	明善(香川)	1° 55'41"
13	鶴崎工業(大分)	1° 55'55"
14	由良育英(鳥取)	1° 56'09"
15	興譲館(岡山)	1° 57'04"
16	白石(佐賀)	1° 57'07"
17	富岡東(徳島)	1° 57'13"
18	北九州市選抜(福岡)	1° 58'38"
19	豊見城南(沖縄)	2° 00'29"

#### 区間賞

第1区(4.2km)	大渡 泰子(諫早)	13'29"
第2区(5.9km)	長尾 育子(筑紫女学園)	18'58"
第3区(5.1km)	田橋 里花(筑紫女学園)	16'49"
第4区(5.9km)	田中さゆり(諫早)	19'45"
第5区(4.9km)	中島 留美(諫早)	16'33"
第6区(6.8km)	藤永 佳子(諫早)	20'26"

1区、6区は新コース



初優勝のゴールテープを切る九電工・田中尚子

#### 一般・大学の部

### 九電工が念願の初優勝 ベテラン・下司の快走光る

各区間で安定した走りを見せた九電工が念願の初優勝を果たした。区間賞はわずか一つ。西尾麻耶ら若い選手が確実につないで、初優勝のおぜん立てを整え、ベテランの下司則子が勝負を決めた。

1区は日本生命、デオデオ、京セラ、九電工、富士銀行の5チームが4秒差にひしめく混戦のスタート。2区ではデオデオの麓みどりが区間賞の快走で抜け出し、11秒差で九電工がつけた。デオデオは3区も楠真美の区間賞でトップを維持、九電工との差を21秒に広げて独走態勢を築くかみえた。

勝負どころは4区だった。九電工の主将・下司が区間賞。1.5km付近でデオデオを逆転し、2位に54秒差をつけて最終区へタスキをつないだ。最終5区で九電工・田中尚子は沖電気宮崎の岡本幸子に激しく追い上げられたが、貯金を守り抜き、10秒差で逃げ切った。

3位は京セラ。2連覇を狙ったデオデオは最終区で4位に沈んだ。

高橋豊・九電工監督 「全国でベスト10入りできるよう、さらにチームの底辺を拡大したい」

下司則子・九電工4区 「安心して走れました」

広島日出国・沖電気宮崎監督 「最も順調にタスキ渡ししたのが九電工。こういうチームが強い」

岡本幸子・沖電気宮崎5区 「負けたのは悔しいけれど、たまに負けるのも若手には勉強、勉強です」

#### 高校の部

### 諫早が圧勝 2連覇 筑紫女学園に1分53秒の大差

超高校級のエース、藤永佳子をアンカーに配して万全の布陣を敷いた諫早が、ライバルの筑紫女学園に大差をつけ、2連覇を達成した。

1区は筑紫女学園や白石など有力校が早々と脱落する中、諫早は1年生の大渡泰子が社会人を含めてトップと快調な滑り出し。一方、1区7位とやや出遅れた筑紫女学園は2区で長尾育子が諫早との29秒差を残り1kmで逆転。3区の田橋里花も区間賞の快走で、逆に諫早に55秒差をつけた。

だが、諫早は、マネジャーから選手に転向した4区の田中さゆりと5区の中島留美がともに区間賞を奪って、筑紫女学園を再逆転し、15秒差をつけてアンカーの藤永へ。藤永は差を1分53秒に広げて2連覇のゴールテープを切った。

3位には各選手が安定した力を発揮した神村学園。初出場の口加はアンカー・八木里子が踏ん張り、4位に食い込んだ。対照的に期待された西京や鶴崎工、白石は前半のブレーキが響き、上位入賞を逃した。

大渡泰子・諫早1区 「藤永(佳子)さんに続くエース? 少し狙っています」

田中さゆり・諫早4区 「ライバルの筑紫女学園を倒すのは、この大会しかない。藤永(佳子)を楽にする走りが出来たと思う」

藤永佳子・諫早6区 「タスキを受けた時は、あとは抜けるだけ社会人を抜いてみようと思った」



2連覇を飾った諫早のエース・藤永佳子